

# 緑地の残るスプロール地帯におけるエココミュニティ拠点の創造

重村力研究室 成田 佑弥

**研究概要：** 本研究では、横浜での緑地が多く残る要因である典型地形「谷戸」に着目し、現代の市街化された谷戸における課題を農的資源と、それらを活用するコミュニティを活かして、解決する為のエココミュニティ拠点を小学校と複合した形で提案した。

**研究目的：** 調査対象地区にした新治町では、市街地と大きな自然がせめぎあう敷地であり、大きな自然では、地域団体・学校教育によって環境共生を気付いているという特徴がある。

そこで本研究では、これらの地域住民の主体的な活動を良好な都市環境の形成につながる要素と捉え、更なる活動の増幅を目指し、都市と自然を強く結びつける為の拠点を設計した。この建築の空間は、プログラムに必要な地域住民の主体性・構築を育む物にする為に、自分たちの居場所と感じることができ、周辺の風景になじむ空間を、木・竹・竹などの農的資源を活用して設計した。

**研究成果：**

## 研究調査から分かった新治町の特徴

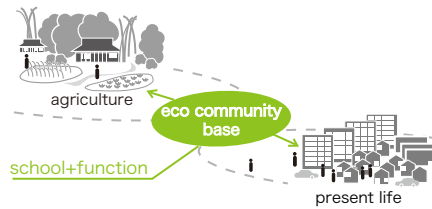
- ・地域団体、学校教育による環境共生



- ・食べ残しによる自然と市街地の無関係な境界



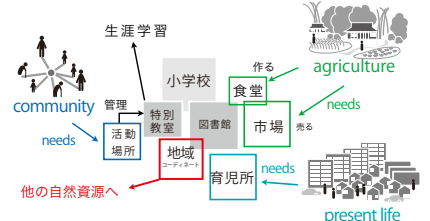
## 提案：エココミュニティ拠点の定義



都市住民を地域の担い手として市民の森と結びつける拠点をエココミュニティ拠点と定義し、既存の新治小学校と複合した形で提案する。

## <エココミュニティ拠点のプログラム>

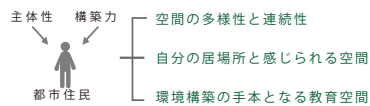
- ・小学校+生活支援施設+市民活動団体補完施設



プログラムは、都市住民、農家、活動団体の3者の要求から導く。市民活動団体には場を提供する代わりに、特別教室群の管理を委託し、生涯学習など多彩な活動の増幅を生む。

- ・コンセプト：地域住民の主体性と構築力をやしなう。

地域住民の地域の担い手として  
主体性 構築力  
による自然と都市の結びつきを作れるように地域住民の主体性、構築力を養う為の空間をつくる。



## <空間構成>

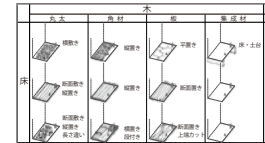
- ・空間の多様性と連続性



- ・自分の居場所と感じられる空間



- ・環境構築の手本となる教育空間



小川広場 支援施設と小学校を結ぶ広場となっている。新治愛護会のおじさんと外で工作教室



クラスごとの畑による、自然学習



- ・コンセプト：地域住民の主体性と構築力をやしなう。

**苦労した点・感想など：**

プログラムの導き方、それを実現する為のゾーニングや空間形態を考える事、さらにすべてを統合して行く過程に苦労しました。しかし、学生最後の設計として納得できるものが出来てよかったです。こうして出来たのは、教鞭を執って頂いた先生、手伝ってくれた後輩達、支えてくれた家族・友達のおかげです。本当にありがとうございました。